

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)特集

ウィズコロナ時代の救命救急センターの看取

長岡赤十字病院 救命救急センター副センター長
集中治療科部長 宮島 衛



11月は意外に暖かい日が続いていましたが、ようやく新潟の冬の到来です。脳卒中や心臓病などの重症疾患、交通事故・転落などの重症外傷が増えてきた上に、コロナ禍のせいかうつ病や自殺未遂も増えております。

新型コロナウイルスは私たち医療者の日常も院内環境も大きく変えてしまいました。発熱患者さんが緊急受診を希望されても、残念ながら受け入れる病院が見つからなくて、たらい回しになってしまふことがありました。新潟県は医師も看護師も足りない医療過疎の県で、病院側も院内感染が心配なので、救命センターがある病院に負担がかかってしまっています。さらに、そのような病院にお勤めの医療者のお子さんたちが周囲から感染を心配されて揶揄され、医療者の使命感が傷つけられた残念なニュースもありました。

コロナ禍の院内感染対策で、多くの病院にて入院患者さんへのご面会は大きく制限されているでしょう。感染拡大地域から来られたご家族の即日面会は、いかに健康な状態でも当院ではお断りしています。つまり、瀕死で緊急入院された患者さんのご家族は、ご面会が叶わぬまま最期を迎えてしまうことがあります。

大切なご家族（ドナー）を失おうとしているご家族と看取り方を語らうことは、平時でもとても難しいことです。さらに面会制限されている今、ご家族が臓器提供という看取り方を初めて理解することはさらに大変でしょう。しかしこれまで臓器提供を選択されたご家族は、その看取り方を決して後悔されていません。提供に至るまで頑張り続けたご家族（ドナー）を日々誇りに思いながら、レシピエントの皆様の健康を祈念されています。短時間の面談の中で私たちはそのことだけでもお伝えし、コロナ禍でも臓器提供の火を絶やさないよう日々努力しています。

新型コロナウイルス感染症に対する本県の臓器提供、移植

公益財団法人新潟県臓器移植推進財団
コーディネーター 秋山 政人



新型コロナウイルス感染症の発生を受け、厚生労働省から臓器提供における新型コロナウイルスへの対応について通知があり、①臓器提供候補者に対するPCR検査の要否を検討する際は、現在のところ臓器移植したことで新型コロナウイルスに感染するかどうかは明らかになっていないことを十分留意しつつ適切に対応すること、②臓器提供候補者について、PCR検査を実施し、陽性だった場合、当該候補者の臓器あつせん行わないこと、③陰性だった場合においても、新型コロナウイルス感染症については未だ不明な点が多いことから、当該候補者の臓器を移植に用いるかどうかについて、移植施設において慎重に判断することが示されております。

このような中、県内では、腎臓・膵臓・角膜の移植を新潟大学で行っております。生体移植（生体は腎臓のみ）は7月1日より再開しております。死体臓器移植及び死体角膜移植については、大学病院内の条件（方針）がクリアーされれば実施することとなっています。

臓器提供については、各施設の判断で実施しておりますが、感染の防御を念頭に置いた対策が行われてきました。

具体的には、外部から臓器提供のために派遣された臓器移植コーディネーターや医師が感染の兆候が無いが、また来院時には日本臓器移植ネットワークが指定する問診票の記入や検温によって院内に入ることになっております。その他、施設によっては、新型コロナウイルス検査を実施し、陰性を確認しなければ院内での臓器提供活動ができない旨の対策を検討している施設もあります。

このように県内の臓器提供は、各医療機関において感染症対策も検討しつつ、安心・安全な臓器提供の環境整備を検討しております。その事でご本人・ご家族の最期の願いを叶えるためのお手伝いをさせていただいているのが本県の臓器提供環境です。